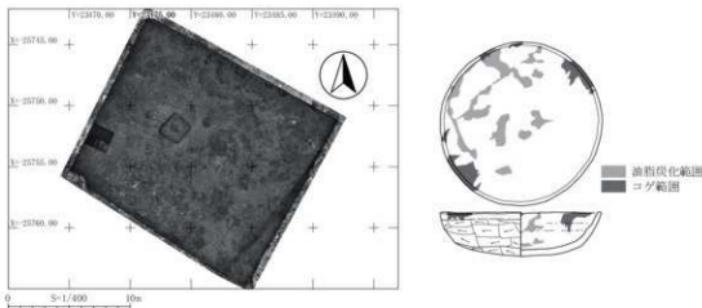


千葉県八千代市

神明前遺跡 b 地点

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



令和元年度

株式会社正栄
八千代市教育委員会

例　言

1. 本書は、八千代市教育委員会が令和元年度民間開発等埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の報告書である。この調査は宅地造成に伴うもので、事業者である株式会社正栄の委託を受けて実施した。
2. 調査を行なった遺跡は神明前遺跡 b 地点（遺跡No.36）で、所在地は八千代市島田台字神明前1054-1・5・6, 1055-1・3, 1056-1・2, 1057-3である。
3. 調査及び整理は以下のとおり実施した。

確認調査 令和元年度市内遺跡調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した。

期間 令和元年 5月 7日～5月17日

面積 291.311／2,300m² (開発面積は 5,201.46m²)

担当 藤 直行

本 調 査 期間 令和元年 8月 20日～9月 13日

面積 271.93m²

担当 藤 直行

本 整 理 期間 令和元年 10月 1日～11月 30日

担当 藤 直行

4. 写真・図面等の調査資料は八千代市教育委員会が保管している。

5. 調査参加者は以下のとおりである。

本 調 査 桐原 誠, 崎坂雄志, 小弓場直子, 長谷川恵理子

本 整 理 小弓場直子, 長谷川恵理子

6. 遺物の実測図作成・トレースは小弓場, 藤, 長谷川が行ない, 本書の図版作成と編集, 執筆, 遺物写真撮影は藤が行なった。

凡 例

1. 本書で使用した地図は、下記地図・地形図を基に作成した。

八千代都市計画基本図（平成29年2月作成）、八千代市都市図（平成29年3月調製）

2. 本書における遺構実測図の用例

(1)図中における方位は世界測地系による公共座標に基づく。

(2)遺構の縮尺率は各図版に示した。

(3)遺構平面図中のトーンは以下のとおりである。

地山 カマド粘土範囲

3. 本書における遺物実測図の用例

(1)遺物の縮尺率は各図版に示した。

(2)実測した土器には遺存範囲を表現した。

(3)口径・胴部最大径・底径の寸法を復元した場合は遺物観察表の数値を括弧で括った。

(4)遺物実測図中のトーンは以下のとおりで、それ以外のものは各図版に凡例を示した。

須恵器断面

(5)胎土の観察にはデジタルマイクロスコープ（秀マイクロンプロ）を使用し、倍率150倍で観察を行なった。

5. 土層および土器の色調について

土層および土器の色調については、『新版標準土色帖 2001年前期版』を使用して判断した。

本文目次

例　　言

凡　　例

本文目次

第1章　調査経過および神明前遺跡の概要

第1節　調査に至る経緯と調査の概要	1
第2節　神明前遺跡の概要	3

第2章　調査された遺構と遺物

第1節　古墳時代	8
第2節　遺構外出土遺物	13
第3章　まとめ	14

報告書抄録

挿図目次

第1図　神明前遺跡の位置と周辺の遺跡	1
第2図　神明前道路の範囲と周辺の地形	4
第3図　確認調査時のトレンチ配置と本調査範囲	5
第4図　調査区全体図	7
第5図　基本層序	8
第6図　1号堅穴建物跡(1)	9
第7図　1号堅穴建物跡(2)	10
第8図　1号堅穴建物跡(3)	11
第9図　遺構外出土遺物(1)	12
第10図　遺構外出土遺物(2)	13

表目次

第1表　神明前道路と周辺の遺跡(1)	2
第2表　神明前道路と周辺の遺跡(2)	3
第3表　神明前遺跡の調査歴	4
第4表　1号堅穴建物跡出土土器観察表	11
第5表　遺構外出土遺物観察表	13

第1章 調査経過および神明前遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯と調査の概要

- 確認調査までの経緯 平成31年3月7日付で株式会社正栄 代表取締役 打田正実氏（以下「事業者」）から、神明前遺跡（遺跡No.36）の包蔵地内に一部あたる八千代市島田台字神明前1054-1・5・6, 1055-1・3, 1056-1・2, 1057-3を対象とする文化財保護法第93条第1項の規定による土木工事の発掘届が八千代市教育委員会（以下「市教委」）に提出された。事業者と市教委で取り扱いの協議を行なった結果、確認調査を行なうこととし、準備が整った令和元年5月7日に確認調査を開始した。
- 確認調査 確認調査は、令和元年度市内遺跡調査事業として国庫及び県費の補助を受けて実施し、対象面積2,300m²のうち291.311m²を調査した。その結果、奈良・平安時代と思われる堅穴建物跡1棟が検出された。
- 保存協議 確認調査の結果をもとに協議範囲を271.93m²として市教委と事業者間で検討した結果、協議範囲全域に対して記録保存の措置をとることとなった。市教委は事業者に対して



第1図 神明前遺跡の位置と周辺の遺跡

第1表 神明前遺跡と周辺の遺跡（1）

遺跡No.	遺跡名	水系	種別	時代	遺跡No.	遺跡名	水系	種別	時代
船橋市				16	子の神台遺跡	神崎川	包藏地、集落跡	旧石器、縄文、弥生、古墳、古代	
13	向野遺跡	神崎川	包藏地	縄文、古墳、古代	18	道地遺跡	新川	集落跡	縄文、弥生、古墳
14	御竹遺跡	神崎川	包藏地	不明	19	平戸台古墳群	新川	古墳、環	古墳、中近世
15	内堰込遺跡	神崎川	包藏地	縄文	20	真木野古墳	神崎川	古墳	古墳
16	鉢身丸山遺跡	神崎川	包藏地	縄文	21	佐山谷古墳	神崎川	古墳	古墳
17	櫛作遺跡	神崎川	包藏地	縄文	22	佐山谷遺跡	神崎川	集落跡	縄文、弥生、古墳、古代
21	露作台古墳	桑納川	古墳	古墳	23	真木野向山遺跡	神崎川	集落跡、環	縄文、古墳、古代、中近世
22	金堀台貝塚	桑納川	集落跡、貝塚	縄文	24	東山久保遺跡	神崎川	集落跡、環	縄文、弥生、古墳、古代、中近世
23	稻荷ヶ作遺跡	桑納川	包藏地	縄文、古代	25	平戸台遺跡	新川	包藏地	縄文
136	出戸遺跡	神崎川	包藏地	縄文	27	間見穴古墳群	新川	古墳	古墳
137	丸山遺跡	神崎川	包藏地	縄文	28	間見穴遺跡	新川	包藏地、集落跡	旧石器、縄文、弥生、古墳、古代、中世
167	小野田町所在塚	神崎川	塚	中近世	32	原内遺跡	神崎川	集落跡	縄文、弥生、古墳、古代
168	車方町所在塚	神崎川	塚	中近世	33	島田台向原遺跡	神崎川	集落跡	古墳、古代
八千代市				34	行々林遺跡	神崎川	包藏地	縄文	
1	作山遺跡	神崎川	包藏地	縄文、古墳、古代	35	四ヶ街道遺跡	神崎川	包藏地	縄文、古代
2	中ノ台遺跡	神崎川	包藏地	縄文、古墳、古代	36	神明前遺跡	神崎川	包藏地	縄文、古代
3	作山塚群	神崎川	塚	中近世	39	婦久保遺跡	神崎川	包藏地	縄文、古代
5	妙正神遺跡	神崎川	包藏地	旧石器、縄文、弥生、古墳、古代	41	東婦久保南遺跡	新川	包藏地	縄文、古代
6	神久保塚	神崎川	塚	中近世	42	東婦久保南遺跡	新川	包藏地	縄文、古代
7	神久保寺台遺跡	神崎川	包藏地、城館跡	縄文、古代、中世	44	鶴作台遺跡	神崎川	包藏地	縄文
8	夏刈山遺跡	神崎川	包藏地	縄文、弥生	45	追分塚	神崎川	塚	近世
9	椿山遺跡	神崎川	包藏地	縄文、古代	46	追分道路	神崎川	集落跡、環	縄文、古代、中近世
10	真木野遺跡	神崎川	包藏地	縄文、古墳	47	鶴作台西遺跡	神崎川	包藏地	縄文
11	松原遺跡	神崎川	包藏地、集落跡	古墳、古代	48	島田込の内遺跡	新川	集落跡	旧石器、縄文、古墳、古代
12	佐山貝塚	神崎川	貝塚、集落跡	縄文、弥生、古墳	50	島田塚群	新川	塚	近世
13	佐山塚群	神崎川	塚	中近世	51	島田城跡	新川	城館跡	中近世
14	西の下遺跡	神崎川	包藏地	縄文、古代	52	島田遺跡	新川	包藏地	古代
15	新久遺跡	神崎川	包藏地	旧石器、縄文、弥生、古代	53	桑納前畠遺跡	新川	集落跡	縄文、古代

第2表 神明前遺跡と周辺の遺跡（2）

遺跡No.	遺跡名	水系	種別	時代	遺跡No.	遺跡名	水系	種別	時代
54	花輪台遺跡	新川	包蔵地	縄文、古代	67	瓜作遺跡	桑納川	包蔵地	縄文、古代
56	熊野神社群集落	新川	塚	近世	111	青柳台遺跡	新川	包蔵地	縄文、古代
57	桑納遺跡	新川	包蔵地	縄文、古代	112	船池台遺跡	新川	包蔵地	縄文、弥生、古墳、古代
59	桑播新田遺跡	桑納川	集落跡	縄文、弥生、古墳、古代	266	真木野前遺跡	神崎川	包蔵地	古墳、古代
61	大東台遺跡	桑納川	包蔵地	縄文、古代	267	瓜ヶ作遺跡	神崎川	包蔵地	縄文、弥生、古代
62	作ヶ谷津遺跡	桑納川	集落跡	縄文、古代	268	田原庄古墳群	神崎川	古墳、塚	古墳、近世
65	本郷台遺跡	桑納川	包蔵地	縄文、古代	269	田原庄遺跡	神崎川	集落跡	弥生、古墳
66	サゴテ遺跡	桑納川	包蔵地	縄文、古代					

令和元年7月8日付で調査にかかる費用の見積りを提示し、事業者は同年7月16日付で調査依頼書を提出し、同年7月30日付で八千代市（以下「市」）はこれを受託した。そして、同日付で八千代市と事業者間で本調査の委託契約を締結した。市教委は準備が整った同年8月20日に本調査を開始した。

4. 本調査の方法 世界測地系にもとづく座標杭設置は測量会社に委託した。調査に関する測量は、この座標杭を基準に光波測量機およびフォトグラメトリー（Metashape および CloudCompare）で行なった。一方、表土の掘削作業は重機で行なった。

5. 本調査の経過 令和元年8月20日に調査区設定をし、8月21～22日にかけて重機による表土の掘削、8月21～26日にかけて遺構確認作業、そして8月26日に遺構検出状況の写真撮影を行なった。調査区内の遺構および搅乱の掘削を同日より開始して9月11日に全ての調査を終了し、9月12～13日にかけて重機で調査区の埋め戻しを行なった。

第2節 神明前遺跡の概要

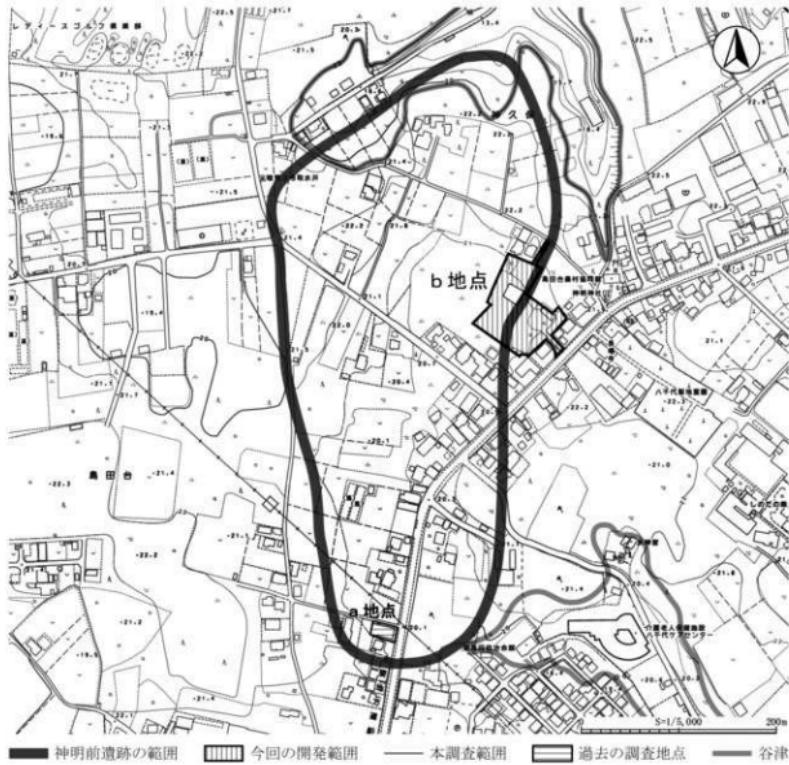
1. 神明前遺跡の立地 神明前遺跡は、北の神崎川から南に伸びる谷津と新川から北西に伸びる谷津双方の谷津頭に位置する。とくに北の谷津頭は舌状台地となっており、集落跡の中心がここに存在する可能性がある。神明前遺跡の包蔵地は北から南に向かって緩やかに傾斜した地形をしており、およそ2mほどの標高差がある。

2. 神明前遺跡における過去の調査 神明前遺跡では過去に1度確認調査が行なわれ、縄文時代とされる土坑と奈良・平安時代とされる土器が見つかっている。

3. 周辺の遺跡

(1) 旧石器時代

県道船橋印西線建設に伴って調査が行なわれた間見穴遺跡および道地遺跡では小規模なブロックが見つかっており、前者がⅢ～V・Ⅶ層、後者がⅢ～V層から石器が出土した（千葉県文化財センター編2004a・b）。



第2図 神明前遺跡の範囲と周辺の地形

第3表 神明前遺跡の調査歴

地点名	調査形態	調査期間	検出遺構	出土遺物	文献
a地点	確認調査	H28.2.12～2.19	縄文時代土坑1基	奈良・平安時代土師器	八千代市教育委員会編2017『千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成28年度』

(2) 縄文時代

金堀台貝塚では竪穴建物跡や堀之内式、加曾利B3式、安行3d式、勾玉、土偶、土製垂飾品、土製耳飾、骨角器などが見つかっている（千葉県史料研究財団編2000）。佐山貝塚は縄文時代中～晩期にかけての大規模な遺跡で、加曾利E式や加曾利B式、曾谷式、安行1式、安行2式、安行3a式、前浦式といった土器に加え、石鏃、磨石、石皿、磨製石斧、土偶などが見



第3図 確認調査時のトレンチ配置と本調査範囲

興財団2006)。蜻池台遺跡では畠の耕作中に弥生時代中期後半の壺形土器や甕形土器が良好な遺存状態で出土した(八千代市教育委員会2017)。

(4) 古墳時代

佐山台遺跡では、報告書は未刊行ながら、古墳時代前期とされる堅穴建物跡が300棟以上確認されたことからかなり大規模な集落が存在していたと考えられる。道地遺跡では古墳時代前期～後期の集落跡(勝千葉県文化財センター編2004, 勝千葉県教育振興財団2006), 島田込の内遺跡では古墳時代前期の集落跡(勝千葉県文化財センター編1998, 勝千葉県教育振興財団編2006), そして間見穴遺跡では古墳時代前期の集落跡に加えて古墳時代前期の方墳あるいは前方後方墳と考えられるもの、古墳時代後期の円墳など(勝千葉県文化財センター編2004・2005, 勝千葉県教育振興財団2006)が見つかっている。平戸台古墳群では2号墳と8号墳が調査されており、前者の箱式石棺からは15体、後者の箱式石棺からは少なくとも6体もの人骨が発見された(八千代市教育委員会編2001・2009)。

(5) 奈良・平安時代

島田込の内遺跡(勝千葉県文化財センター編1998, 勝千葉県教育振興財団編2006)や間見穴遺跡(勝千葉県文化財センター編2004・2005, 勝千葉県教育振興財団2006), 佐山台遺跡で奈良・平安時代の集落跡が確認されている。とくに、間見穴遺跡では多くの堅穴建物跡と墨書き・刻書土器が発見されている。

(6) 中世

作山遺跡では中世の火葬墓・土壙墓25基と溝跡1条が調査され、中世の白磁・青磁・錢貨・

つかっている(八千代市史編さん委員会編1991, 千葉県史料研究財団2000)。桑納前畠遺跡では阿玉台Ia～b式期の堅穴建物跡、加曾利E4式期を中心とした土坑群が見つかっている(睦小学校北方遺跡調査会編1978, 八千代市教育委員会編2010)。

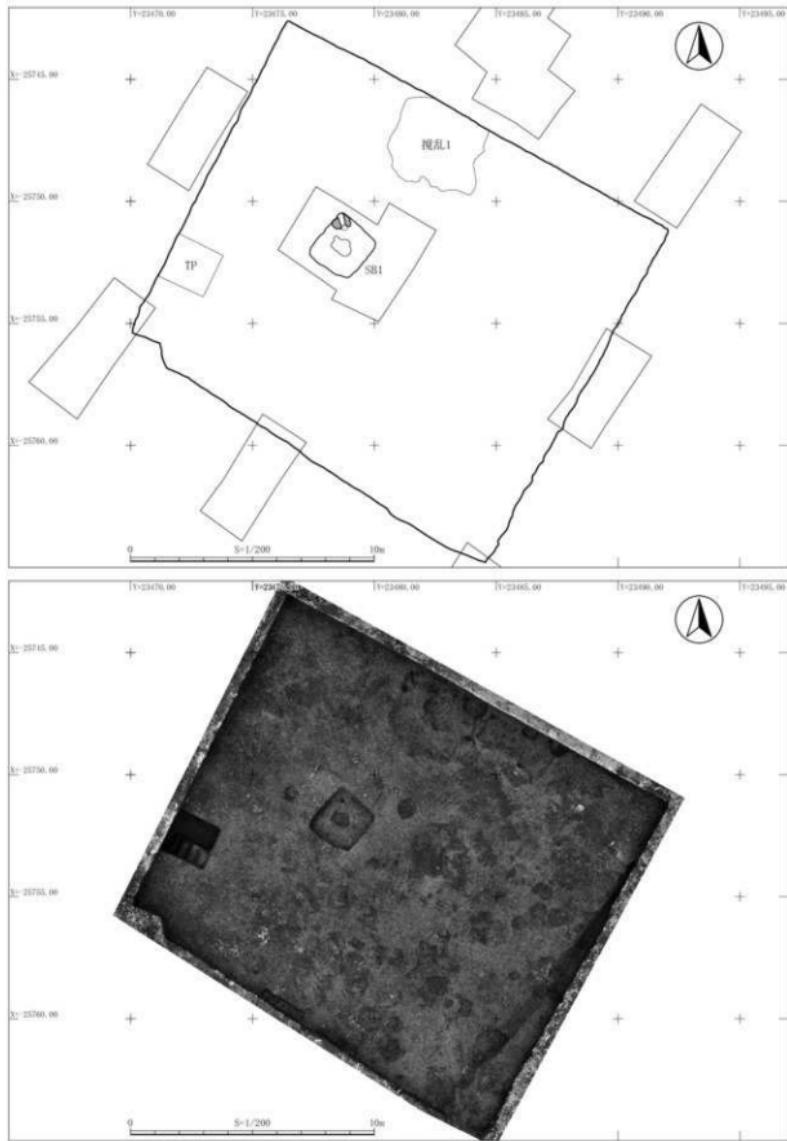
(3) 弥生時代

原窪遺跡では弥生時代中期後半の環濠集落のほぼ全域が調査された(八千代市教育委員会編1995, 勝千葉県史料研究財団2003)。道地遺跡や間見穴遺跡では弥生時代後期～終末期にかけての堅穴建物跡が多数確認されている(勝千葉県文化財センター2004a・b・2005, 勝千葉県教育振

板碑が見つかっている（八千代市教育委員会編2003）。作山塚群では4基の塚が調査されたが、残念ながら塚の築造時期や性格を示すような遺物は出土しなかった（八千代市教育委員会編2011・2017）。間見穴遺跡では中世～近世の火葬施設群と土壙墓が検出された（千葉県文化財センター編2004）。神久保寺台遺跡では中世の城館跡に関わる土壙や堀跡が確認されている（八千代市教育委員会編1997・2002・2018）

＜引用文献＞

- 千葉県教育振興財団編 2006『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書5 八千代市島田込ノ内遺跡（2）・間見穴遺跡（3）・道地遺跡（2）』（千葉県教育振興財団調査報告第559集）（独）都市再生機構千葉地域支社・㈱千葉県文化財センター
- 千葉県史料研究財団編 2000『千葉県の歴史 資料編 考古1（旧石器・縄文時代）』（県史シリーズ9）千葉県
千葉県史料研究財団編 2003『千葉県の歴史 資料編 考古2（弥生・古墳時代）』（県史シリーズ10）千葉県
千葉県文化財センター編 1998『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書1 八千代市島田込ノ内遺跡』（千葉県文化財センター調査報告第328集）千葉県土木部・㈱千葉県文化財センター
- 千葉県文化財センター編 2004a『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書2 八千代市道地遺跡』（千葉県文化財センター調査報告第464集）都市基盤整備公団・㈱千葉県文化財センター
- 千葉県文化財センター編 2004b『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書3 間見穴遺跡』（千葉県文化財センター調査報告第473集）都市基盤整備公団・㈱千葉県文化財センター
- 千葉県文化財センター編 2005『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書4 間見穴遺跡（2）』（千葉県文化財センター調査報告第506集）（独）都市再生機構・㈱千葉県文化財センター
- 睦小学校北方遺跡調査会編 1978『桑納前畠遺跡』睦小学校北方遺跡調査会
- 八千代市教育委員会 2017『理（まい）やちよ』№37 教育総務課文化財班
- 八千代市教育委員会編 1995『平成6年度 八千代市埋蔵文化財調査年報』八千代市教育委員会
- 八千代市教育委員会編 1997『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成8年度』八千代市教育委員会
- 八千代市教育委員会編 2001『千葉県八千代市 平戸台2号墳発掘調査報告書』八千代市教育委員会
- 八千代市教育委員会編 2002『千葉県八千代市不特定遺跡調査報告書1』八千代市教育委員会
- 八千代市教育委員会編 2003『千葉県八千代市 作山遺跡発掘調査報告書』八千代市教育委員会
- 八千代市教育委員会編 2009『千葉県八千代市 道地遺跡e地点・平戸台8号墳』YAMA テック㈱
- 八千代市教育委員会編 2010『千葉県八千代市 桑納前畠遺跡b地点発掘調査報告書』八千代市教育委員会
- 八千代市教育委員会編 2011『千葉県八千代市作山塚群 1号塚・2号塚』㈱ケイユー
- 八千代市教育委員会編 2017a『千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成28年度』八千代市教育委員会
- 八千代市教育委員会編 2017b『千葉県八千代市 作山塚群3号塚・4号塚』社会福祉法人心聖会
- 八千代市教育委員会編 2018『千葉県八千代市 神久保寺台遺跡c地点』万仁土地㈱
- 八千代市史編さん委員会編 1991『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』八千代市



第4図 調査区全体図（下図はオルソ画像）